

第4期芽室町総合計画 施策評価まとめ

(第3回・4回合同委員会 協議集約)

基本目標	政策	施策名	総務経済常任委員会	厚生文教常任委員会	第3回合同委員会 意見	両正副案⇒ 全体案
誰もが健やかに生き生きと暮らせるまちづくり	生涯を通じて安心して暮らせる保健医療環境づくり	1-1-1 生涯を通じた健康づくり	課題認識の方向性は正しい。 「健康的な生活習慣」を身につけている町民の数を増やすこと、特定検診受診率向上にむけては更なる取り組みが必要である。 また、小中学生の健康教育は学校教育との共通認識が必要であり教育方針に盛り込まれるべきである。	健康づくりは、町民自らが自分の健康へ関心と責任を持ち、具体的に行動することである。 健診・保健指導と併せて、町民の意識改革、行動変容につながる啓発活動を引き続き行なう必要がある。	無し	町の課題認識は概ね正しい。 健康づくりは、町民自らが自分の健康へ関心と責任を持ち、具体的に行動することである。 健診・保健指導と併せて、町民の意識改革、行動変容につながる啓発活動を引き続き行なう必要がある。 また小中学生の健康教育は学校教育との共通認識が課題である。
		質疑	・「教育方針に盛り込むべき」というのはどこの方針に？ →そこまで深くは検討していない。	無し		
		1-1-2 公立芽室病院の総合的な医療体制の維持・発展	課題認識はおおむね正しい。 将来に向けた病院存続のためには地域医療拠点としての役割を果たすと同時に、赤字解消にむけた効果的効率的な病院運営の研究が今後必要である。	医師確保対策、町民の利便性の向上、費用の効率化などの経営努力は評価する。しかし、患者数の減少、病床利用率の低迷、運転資金の不足など経営状況は悪化していることから、公立芽室病院が存続するための具体的な方策を示すべきである。	無し	町の課題認識は概ね正しい。 医師確保対策、町民の利便性の向上、費用の効率化などの経営努力は評価する。しかし、患者数の減少、病床利用率の低迷、運転資金の不足など経営状況は悪化している。 地域医療拠点としての役割を果たしつつ 、赤字解消にむけた効果的効率的な病院運営の 変革 が今後の課題である。
	質疑	無し	無し		・「公的病院の役割を果たしつつ病院運営を進めていく課題がある」 ・「病院運営に向けた変革が課題である」	
	子育てしやすいまちづくり	1-2-1 安心して生み育てることができる子育て支援	課題認識はおおむね正しい。 子どもを生んだあとも働く女性が安心して仕事と育児を両立できるようにならないと女性は安心して子どもを生みたいとは思わない。 配偶者や職場、社会への意識啓発は今後も継続し、女性一人に家事育児負担がかかる「ワンオペ育児」とならないような支援が必要である。	「発達支援システム」の定着と子ども・子育て新支援制度の取り組みが、効果的に推進されている。 妊娠期から出産、育児まで途切れることがない支援体制のさらなる充実を求める。	無し	町の課題認識は概ね正しい。 「発達支援システム」の定着と子ども・子育て新支援制度の取り組みが、効果的に推進されている。妊娠期から出産、育児まで途切れることがない支援体制を継続する。 配偶者や職場、社会への意識啓発は今後も継続し、女性一人に家事育児負担がかかる「ワンオペ育児」とならないような支援が必要である。
			質疑	無し	無し	
		1-2-2 児童福祉の充実	課題認識の方向性はおおむね正しい。 保育士の待遇改善を図り、本町における保育全体の更なる資質向上を目指すこと。また、中高生の放課後の居場所づくりに向けた検討、研究が必要である。	「農村保育所再整備計画」にもとづき、保育サービスの格差是正がされた。 今後も保護者が安心して子どもを預けられる環境と質の充実を求める。 また、放課後の子どもの居場所づくりについ	・中高生の放課後の居場所は必要であるが、具体的に調査研究する必要がある。	町の課題認識は概ね正しい。 「農村保育所再整備計画」にもとづき、保育サービスの格差是正がされた。 放課後の子どもの居場所づくりについては、子どもセンターが開設され、一定の環境が整ったと評価す

				ては、子どもセンターが開設され、一定の環境が整ったと評価する。引き続き子どもが安心して過ごせるよう施設運営のさらなる充実を求める。		る。 保育士の待遇改善、中高生の放課後の居場所づくりに向けた検討、研究が課題である。
		質疑	無し	無し		
健やかな暮らしと自立を支える福祉の充実	1-3-1 地域で支え合う福祉社会の実現		課題認識の方向性はおおむね正しい。 民生委員の成り手不足対策や、今後は更に住民同士が支え合う共助の体制づくりが必要となることを住民と共通認識を持ちながら施策推進に努める必要がある。	お互いに支え合うという意識醸成を育む事業展開が必要である。民生児童委員の担い手不足については、新たな取り組みの開発が必要である。	無し	町の課題認識は概ね正しい。 民生児童委員の担い手不足、住民同士が支え合う共助の意識醸成並びに体制づくりが課題である。
		質疑	無し	無し		
	1-3-2 高齢者福祉の充実		課題認識の方向性はおおむね正しい。 成果指標の中に介護認定率をおくことは本人からの申請を抑制することにもなりかねず適切ではない。やりがいのある活動に取り組む高齢者の割合が指標に達していないため、今後は地域の中で高齢者が活躍する場の創出も必要となる。	高齢者が地域で安心して生活できる体制を整備するとともに、とくに「交流の場」への支援を継続する。	・「成果指標の中に介護認定率をおくことは本人からの申請を抑制することにもなりかねず適切ではない」というのは非常に重要な見解。	町の課題認識は概ね正しい。 やりがいのある活動に取り組む高齢者の割合が指標に達していない。 高齢者が地域で安心して生活できる体制を整備するとともに、生活支援体制整備を進める。 『介護認定率』を成果指標の一つとすることは本人からの申請を抑制することにもなりかねず、 指標設定の見直し が課題である。
		質疑	無し	無し		・最後の部分「なりかねない」という表現はどうか？ 「課題がある」という表現がよいのでは？ ・文末は揃えるべき。
障がい者の自立支援と社会参加の促進	1-3-3		課題認識の方向性はおおむね正しい。 就労支援と同時に、重度・中度の障がい者に対しても住まいの確保、相談支援体制の確立、生活支援の充実も必要である。	障害者就労支援の継続、グループホーム建設計画など着実に環境整備が進んでおり、取り組みを継続する。	無し	町の課題認識は概ね正しい。 障害者就労支援の継続、グループホーム建設計画など着実に環境整備が進んでいる。 就労支援と同時に、重度・中度の障がい者に対しても住まいの確保、相談支援体制の確立、生活支援の充実が課題である。
		質疑	無し	無し		
人々が尊重し合う地域社会の実現	1-4-1 お互いに認め合う地域社会の形成		課題認識の方向性はおおむね正しい。 女性登用率の目標達成には、あらかじめ女性登用枠を定める「クォータ制」導入などの環境整備も必要である。また、幼少期から「ジェンダーバイアス(性別に関する固定観念)」を取り除くような環境づくりも必要である。	女性登用率50%を成果指標とするとともに、今後はLGBT支援など新たな課題にも取り組まなくてはならない。	無し	町の課題認識は概ね正しい。 「女性登用率」という成果指標の設定自体が課題である。 今後はLGBT支援 について幼少期からの環境づくり が課題である。
		質疑	無し	無し		・「設定値到達に向けての取り組みが課題」など具体的な表現を。現状はあまりに低いですが、にもかかわら

						<p>ず到達していない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「女性登用率設定値を引き上げる」 ・女性登用率を50%に設定して良いのでは。 ・「設定値が課題である」 ・『登用』は差別的な意味があるのでは？ ・教育の中でLGBTの正しい知識を。 ・幼少期からの環境づくりが必要である。
豊かな自然を生かした活力ある農業のまちづくり	基幹産業の農業に対する支援の強化	2-1-1 担い手育成と農業支援	<p>課題認識の方向性はおおむね正しい。</p> <p>成果指標として経営者の年齢を用いているが今後は法人経営が増えることを想定した指標設定が必要である。</p> <p>また、今後の気候変動、世界情勢との関わり、経営主体の多様化など従前とは異なるビジョンを持ち、TPP,EPA などから受ける影響も加味した取り組みも求められる。</p>	新規就農者への支援、育成や国際経済政策等への対応など、芽室町農業再生協議会の機能強化と役割を再確認する必要がある。	・「今後の気候変動…」について気候変動は、別の施策に関係すべきではないか。	<p>町の課題認識は概ね正しい。</p> <p>法人経営体や新規就農者等の支援、育成、国内外の経済政策等への対応など、芽室町農業再生協議会の機能強化が課題である。</p>
		質疑	無し	無し		<ul style="list-style-type: none"> ・地域農業者を守る視点で、(外部の)大規模法人経営体を支援するようなことには言及すべきではない。 ・国も個人経営から法人化を促進する方向もある。
		2-1-2 農業生産性の向上と農業の応援団づくり	<p>課題認識の方向性はおおむね正しい。</p> <p>有害鳥獣対策はハンターの高齢化など、後継者不足が懸念されるため手法の検討必要である。</p> <p>また、農業に従事する労働力不足解消への取り組みも急ぐべき。</p>	労働力の確保と次世代が農業への理解を深めることができる取り組みを継続する。	無し	<p>町の課題認識は概ね正しい。</p> <p>有害鳥獣対策はさらに有効な手法の検討が課題である。</p> <p>農業に従事する労働力不足解消への取り組みは喫緊の課題である。</p>
		質疑	無し	無し		<ul style="list-style-type: none"> ・「対策」は幅広い。具体的に「有害鳥獣対策における担い手育成」が課題ではないか。 ・施策の目的は生産性向上であり、それを阻害する有害鳥獣対策である。
		2-1-3 農地・土地改良施設等の整備・充実	<p>町の課題認識はおおむね正しい。</p> <p>環境保全組合のない地区があり、農業者の自主的な取り組みに差が生じている。</p> <p>また、災害時の営農用水のバックアップ体制(井戸)が整備されていないことも今後の課題と考える。</p>	土地改良事業および無水源対策は、今後も継続して計画的な事業実施をする。また、被災した農地の地質改善基盤整備を継続して取り組む。	無し	<p>町の課題認識は概ね正しい。</p> <p>土地改良事業および無水源対策は、今後も継続して計画的な事業実施をする。</p> <p>災害時の営農用水のバックアップ体制が整備されていないことが課題である。</p>
		質疑	無し	無し		
2-1-4 地域林業の推進	町の課題認識と同じであるが、地域材の有効活用がなされておらず資源の現金化ができていない。	国有林、民有林ともに計画的な整備を継続する。	無し	<p>町の課題認識は概ね正しい。</p> <p>国有林、民有林ともに計画的な整備を継続する。</p>		

			また、森林所有者の補助事業の活用を含めた周知啓発や、防災の観点からの私有林の適切な管理に向けた周知が必要である。			
		質疑	無し	無し		
	農業と連携した活力ある商工観光の振興	2-2-1 地域内循環の推進と商工業の振興	課題の認識はおおむね正しいが、施策目標を達成するための事業に課題あり。特にまちなか賑わいについては一日だけのイベントで達成できたとの評価は困難である。成果指標の中に一年間の新規起業数を加える、地域内循環の考え方を地元商店での買い物だけではなく、町内産の原料を使用した製品も加えるなどの、新たな視点が必要。	第6工業団地の造成計画策定にむけた取り組みを継続する。中心市街地活性化については、商工会が主体となることが望ましい。	無し	町の課題認識は概ね正しい。 これまでの工業団地造成、企業誘致活動は十分な成果が見られた。 イベント開催を中心とした中心市街地活性化の取り組みについては、課題がある。
		質疑	無し	無し		
		2-2-2 地域資源を活用した観光の振興	方向性が見えてこない。新嵐山荘の宿泊客想定に矛盾があり、成果指標③は達成するには厳しい状況が続いている(H28年は災害復旧特需であった)。これまでの事務事業は観光客の入れ込み増加ではなく、現状を維持するので精いっぱいである。就労キャリア支援を前面に押し出す方策と一般客の集客は別立てにして進めるべき。	本町で生産される農作物と観光振興を連携させた取り組みを今後も継続する。	無し	町の課題認識は概ね正しい。 「食・農業・景観」と観光振興を連携させた取り組みを今後も継続する。 本町の観光政策のビジョンが存在せず町としての方向性が見えないことが課題である。
		質疑	無し	無し		
快適で安全 安心な暮らしを支えるまちづくり	安心安全に暮らせる生活環境づくり	3-1-1 災害に強いまちづくりの推進	課題の認識はおおむね正しい。 成果指標①の見直しが必要。現状の目標値を継続するのであれば事業の見直しが必要。「公助の限界」がある事はすでに周知されているため、あえて行政が限界について記載しなくてもよいと考える。	「地域防災計画」の見直しと日頃から町民の防災意識を高める取り組みを継続する。	無し	町の課題認識は概ね正しい。 「地域防災計画」の見直しと日頃から町民の防災意識を高める取り組みを継続する。
		質疑	無し	無し		
		3-1-2 消防・救急の充実	課題の認識はおおむね正しいが消防団のあり方と、団員確保及び広域化における消防団の役割の明確化が必要。救急出動件数の増加に伴い、消防署員の適正な配置数の確保や団員の確保が今後の課題である。	消防職員の適正な人員配置と消防団員の確保対策および住宅用火災報知器の設置義務徹底の取り組みを求める。	無し	町の課題認識は概ね正しい。 消防署員の適正な配置数の確保や団員の確保が今後の課題である。
		質疑	無し	無し		
		3-1-3 防犯対策と交通	課題の認識はおおむね正しいが、犯罪件数の減少は機関、団体と行政との連携による実現とは因	交通安全や防犯対策を目的とした団体や警察等の関係機関、町内会などと連携を取	無し	町の課題認識は概ね正しい。 交通安全や防犯対策を目的とした団体や警察等の

	安全の推進	果関係が不明であり、また高齢者の交通安全対策不十分である。	り、安心して暮らせる環境づくりを推進する。		関係機関、町内会などと連携を取り、安心して暮らせる環境づくりを推進する。
	質疑	無し	無し		
	3-1-4 消費者の安全 安心の確保	課題の認識はおおむね正しい。	芽室消費者協会の支援を継続し、安心安全に暮らせる生活環境の取り組みを継続する。	無し	町の課題認識は概ね正しい。 芽室消費者協会の支援を継続し、安心安全に暮らせる生活環境の取り組みを継続する。
	質疑	無し	無し		
都市空間の整備と有効な土地利用の推進	3-2-1 有効な土地利用の推進	課題の認識はおおむね正しいが、中心市街地の空洞化は現在の空き家対策では不十分である。また緑町の宅地分譲後の検証が必要。今後は公営住宅の適正管理、高齢者や障がい者が安心して暮らせる都市空間と住環境整備や、新たな都市計画マスタープランへの位置づけなど、新たな取り組みが必要である。	空き家、空き地の増加、高齢化の進行など状況に応じた取り組みを推進する。	無し	町の課題認識は概ね正しい。 空き家、空き地の増加、高齢化の進行など状況に応じた取り組みが課題である。
	質疑	・緑町宅地分譲後の検証は具体的にどんな検証か→緑町は優良宅地として町が分譲すべき土地だったのかという意見があった。水害等を考慮したなかで、どういったものが分譲に適した土地になるのか、検討すべきではないかということ。 ・土地利用について災害等を考慮して進めるべきでないかということか→宅地化のスピード(売れ行き)が芳しくない感覚がある。土地利用は災害等の影響も考慮すべきという考え。	無し		
	3-2-2 快適な住環境の整備	町の課題認識はおおむね正しい。老朽化した公営住宅の適正な維持管理は今後も継続の必要あり。	「芽室町公営住宅長寿命化計画」「芽室町公営住宅等ストック総合活用計画」にもとづいて事業実施に取り組んでおり、今後も計画的な事業推進を求める。	無し	町の課題認識は概ね正しい。 「芽室町公営住宅長寿命化計画」「芽室町公営住宅等ストック総合活用計画」にもとづいて事業実施に取り組んでおり、今後も計画的に事業を推進する。
	質疑	無し	無し		
	3-2-3 道路交通環境の整備	課題の認識はおおむね正しい。成果指標に「じゃがバス」利用実績を加えてはどうか。住民からは間口除雪への要望が多いが、今後高齢化や独居高齢者増加が見込まれることから何らかの対策必要である。道路の損傷が想定以上にすすんでおり、道路マスタープランが活かされていないと考える。	道路施設等環境の整備は、計画的に進んでいる。コミュニティバスは年々定着している。	・西4条通りの道道化、安全対策など含めて検討されていたことがあったが、あの場所がどのような見通しか、(評価に)含める必要があるのでは。	町の課題認識は概ね正しい。 道路交通環境の整備は、計画的に推進する。 農村部の移動手段の整備・検討が課題である。
	質疑	無し	無し		

自然と調和した生活環境の整備と環境の保全	3-3-1 景観の保全とクリーンエネルギーの推進	再生可能エネルギーの需要が増しているため事業の推進が必要である。太陽光発電所は、町外企業による設置が多く、町内のエネルギーが町の外の持ちだされている現状がある。 また、景観＝住民の日々の暮らしが作りだすものだと考えるが、住民が暮らしやすく、かつ魅力あるまちづくりを推進することで成果指標達成につながるのではないか。例えばゴミステーションの清潔維持や、本町の財産でもある農村風景を維持するための防風林の保全や農業支援など、異なる主管課との横断的な取り組みが必要である。	農業廃棄物を活用した新エネルギーの導入については着実に研究が進んだ。導入については多様な見地から総合的に判断する。	・地元で再生エネルギーを使って地元で消費する時代である。そういった方向性をどのように作っていくかがこれからの課題であり、そのあたりを盛り込んでいきたい。 ・「町内のエネルギーが町の外の持ちだされている現状」については、きちんとした情報をもとにした見解でなければならない。	町の課題認識は概ね正しい。 農業廃棄物を活用した新エネルギーの導入については着実に研究が進んだ。 「芽室町公共サイン整備構想」に基づいて公共サインの整備が進んでいる。
	質疑	・再生可能エネルギーについて「町外企業による設置が多く、町内のエネルギーが町の外の持ちだされている現状」という具体的な資料はあるか→エネルギーの地産地消という観点で出た意見。具体的な資料の共有には至っていない。	無し		
	3-3-2 廃棄物の抑制と適切な処理	町の課題認識で良いが可燃不燃ごみ収集事業では動物被害について多くの町民からの意見から意見が寄せられているため、今後も検討研究が必要。	ゴミの減量化、リサイクルの推進など概ね適切に実施されている。 「新中間処理施設の整備方針」にもとづき、くりりんセンター焼却炉の老朽化対策に引き続き取り組む。	無し	町の課題認識は概ね正しい。 ゴミの減量化、資源化など資源循環型社会の実現に向けての取組みは評価できる。
	質疑	無し	無し		
	3-3-3 上下水道の整備	課題認識の方向性はおおむね正しく、計画に基づき引き続き取り組むべき。しかしながら、水道料金引き下げに向けた検討は今後も必要である。	「芽室町下水道中期ビジョン」および「上水道事業施設整備基本計画」の策定により、上下水道の計画的な整備がされた。また農村地区の集落排水、合併浄化槽の整備も計画的に進んでいる。		町の課題認識は概ね正しい。 「芽室町下水道中期ビジョン」および「上水道事業施設整備基本計画」の策定により、上下水道の計画的な整備がされている。 また農村地区の集落排水、合併浄化槽の整備も計画的に進んでいる。
	質疑	・水道料金引き下げについて、どのような議論でこの結論に至ったのか？→他町村などの状況からの意見。具体的な議論ではない。 ・収益についても厳しい状況であり、芽室町の状況では厳しいのではないか。今後、まとめの中で再整理が必要かと思うが→今後意見整理することを念頭に置いた見解でもあり、両委員会の中で	無し	無し	

			共通認識をもってまとめたら良い。			
個性的で心豊かな人と文化を育むまちづくり	豊かな心を育む人づくりの推進	4-1-1	課題の認識はおおむね正しい。 教育活動支援助手の加配については各学校ニーズに見合っていない現状がある。各校への一律配置ではなく、複式学級への柔軟な対応や、配慮が必要な子どもの数に合わせた配置などの工夫が必要である。制度や予算を有効活用できるよう、教育現場との連携を更に強化する必要がある。また、教員の過重労働については教育委員会も積極的に介入し、課題解決に向けての取り組みが求められる。	子どもたちがいきいきと学び、人との関わりを大切にした学校教育の充実を今後も継続する。	無し	町の課題認識は概ね正しい。 子どもたちがいきいきと学び、人との関わりを大切にした学校教育の充実を今後も継続する。特別なニーズに対応した教育の一層の推進が課題である。
		質疑	無し	無し		
		4-1-2	課題の認識はおおむね正しい。 子どもが図書に触れる機会を充実させるための取り組みを推進すべき。図書館をもっと子どもの社会教育活動のために活用できないか、その方策を検討すべきである。	高齢化社会に対応した生涯学習のあり方を検討する。	無し	町の課題認識は概ね正しい。 全ての世代が心豊かに暮らせるための、多様な生涯学習のあり方の検討が課題である。 図書館機能の充実など多様な学びの場の提供をさらに推進する。
	質疑	無し	無し			
	4-1-3	課題の認識はおおむね正しい。 中学生以上の子どもたちが地域活動に参加できる機会が少なく、地域の大人と関わられるような機会が少ない。次代の担い手を育成していくためにも、より多くの子どもたちが地域活動に参加できるような場の創出が必要となってくると考える。	学校・地域・家庭が連携した体制づくりに引き続き、取り組む。	無し	町の課題認識は概ね正しい。 自ら判断する力や責任感を身に付け、社会性豊かな青少年の育成が課題である。	
		質疑	無し	無し		
	交流を通じた魅力ある地域文化の形成	4-2-1	課題の認識はおおむね正しい。 文化活動に参加する町民が減少していることの原因を町は把握しているが、財政支援だけではなく高齢化による団体存続不可能など課題解決には寄り添った支援が必要と考える。また、必要であれば更なる予算措置を求めるべき。	芽室町の歴史を体験し、学習する機会を増やす取り組みを継続する。	無し	町の課題認識は概ね正しい。 個々の「文化活動」に対するニーズの多様化への対応が課題である。
		質疑	無し	無し		
		4-2-2	屋外施設の老朽化は顕著。総合体育館を中心とした町全体の総合的な整備について早急に計画必要。 今後は運動講座のみではなく個人でも気軽に運	社会体育施設のあり方については、施設整備計画策定という具体的な方向が示された。 また、少年団等活動の指導者は、高齢化や	無し	町の課題認識は概ね正しい。 社会体育施設の総合的な整備計画策定については方向が示されている。 スポーツ活動の指導者は、高齢化やなり手不足、多

			動を始められるようなメニューづくりなど新たなサービスも求められる。	なり手不足が課題となっており、今後は育成支援に取り組む必要がある。		様なニーズへの対応が課題である。
		質疑	無し	無し		
		4-2-3 国際・地域間交流の推進	課題の認識はおおむね正しいが、現在の成果指標は実施回数や、周知の数値のみである。今後はその後の効果についてもビジョンを持つことも必要と考える。	トレーシーとの交流は、毎年実施されており、友好都市・姉妹都市として町民の認知度も高い。 地域間交流は、経済交流活動から災害時相互応援協定締結といった具体的な対策に変化している。 ふるさと交流センターにおける山村留学は、地域の住民と一体となった取り組みを行ってきたが、今後は農業研修生の受け入れとともにあり方を検討する必要がある。	無し	町の課題認識どおり。
		質疑	無し	無し		
町民が主役となった自治に基づくまちづくり	町民が主役となった地域づくり	5-1-1 徹底した情報公開と説明	町の課題認識は正しいが、役場 SNS は職員間の情報発信に対する意識に温度差があることを町も課題ととらえており、今後も更なる取り組みが求められる。 また、ホームページ上に公開されている情報にたどりつくまでが分かりにくいなどの課題に対しては、今後改善が必要である。	情報公開制度は、公開度が着実に高まっているが、さらなる充実を求める。 広報公聴機能については、広報誌やホームページ、SNS など、多様な手段を用いて町民にわかりやすく町の情報を伝えている。 農村地区のブロードバンドは、目的の確認、今後のあり方について検討が必要である。	無し	町の課題認識は概ね正しい。 情報ツールの拡大は評価できるが、見易さ、検索性など改善の継続が課題である。 農村地区のブロードバンドは、目的の確認、今後のあり方について検討が課題である。
		質疑	無し	無し		・「大きな」は必要か？
		5-1-2 町民参加の促進	課題認識はおおむね正しいが、参加したいけど参加できていないサイレントマジョリティ層の声をいかにまちづくりの場に引き出すのが今後の課題である。	自治やまちづくりに関心をもってもらう取り組みは、今後も継続する。	無し	町の課題認識は概ね正しい。 多くの町民が自治やまちづくりに関心を持ち「参加」できる取り組みの拡大が課題である。
		質疑	無し	無し		
		5-1-3 地域活動の推進	町の課題認識で良いが、地域集会施設再整備は地域住民のニーズ把握を丁寧に、地域の声を尊重しながら進めるべき。さらに、地域コミュニティ＝居住地域のコミュニティではなくなっている現状もふまえた町民の地域活動を支援する方法も必要であり、そのためには町民活動支援センターの役割が重要になってくると考える。	それぞれの地域の歴史や課題を踏まえ支援のあり方を継続する必要がある。公共サービスパートナー制度は、担い手の高齢化や地域の希薄化により事業拡大は見込めない。町内会以外の担い手を検討する、または別の手法を検討する必要がある。	無し	町の課題認識は概ね正しい。 地域コミュニティ＝居住地域のコミュニティではなくなっている現状もふまえた町民の地域活動を支援する方法の検討が課題である。
		質疑	・農村地域の住民活動についても議論されたか →地域集会施設再整備の関係で折り込まれてい	無し		・「地域コミュニティの再構築への支援」を。 ・地域コミュニティについては町としても課題として認

			ると考える。各活動団体を意識して「センターの役割は重要」とした。			識している。
安定した行財政運営と行政サービスの推進	5-2-1 効果的・効率的な行政運営		町の課題認識でよいが、若手職員による公共 FM への提言を尊重した計画策定推進など、次代の公共のあり方に適した手法で行政運営を進める必要がある。 総合計画審議会・行政改革推進委員会の人選は固定化しているとの課題に対しては、幅広い立場の町民から行うことを念頭に今後もすすめていくべきである。	総合計画を中心にしたサイクルは、定着している。今後も町民の立場に立った計画づくりや事業実施が求められる。	無し	町の課題認識は概ね正しい。 総合計画に基づいた行政運営は定着している。今後も町民の立場に立った計画づくりや事業実施が求められる。
		質疑	無し	無し		
	5-2-2 健全な財政運営		町の課題認識で良い	町全体の財政状況(実質赤字比率、連結実質赤字比率、実質公債費比率、将来負担率)は健全に推移している。近年経常収支比率が上昇しているが、今後ますます少子高齢化が進行する中においては、事業を精査し取り組む必要がある。	・町の財政指標は健全であるが、今後の地方財政に対する抑制方向を考えると楽ではない。経常収支比率が高いのは成熟社会として当然なのかもしれないが、自治体の役割として住民福祉の向上の精神は堅持していくことが必要である。	町の課題認識で良い。 自治体の役割として住民福祉の向上の精神は堅持し、引き続き事業を精査し取り組む。
		質疑	無し	無し		
	5-2-3 親切・便利な行政サービスの推進		H28 町民意識調査の結果もポイントが低下しており、町民にとって親切便利な窓口対応の改善に向けた取り組みが必要である。 また、ICT 活用に対する課題認識が庁内のセキュリティ強化にしか言及されておらず、電子申請メニュー拡大など町民の利便性を図ることが検討されていない。今後は電子自治体の更なる推進を目指し、住民ニーズにこたえるための検討・研究が求められる。	新庁舎建設は、ワンストップサービスの確保や利便性の向上など町民の満足度を高める方向で進んでいる。情報化の進展に伴い、個人情報の取扱や情報危機管理体制の充実は、今後も継続して取り組む。	無し	町の課題認識は概ね正しい。 町民にとって親切便利な窓口対応の改善は課題。 電子申請メニュー拡大など町民の利便性を図ること、住民ニーズに応えるための検討・研究が課題である。
	質疑	無し	無し			・セキュリティ強化の視点を入れるべきではないか？ ・町の施策評価の中に同様の視点がある。 ・「町の課題認識は概ね正しい」と入れるべき。
総括				第4期総合計画は、アベノミクスによる経済効果が実感できない不安定な財政状況において、人口減少と健全な財政運営の実現に向		

		<p>き合ってきた10年でした。町税は、農業所得の増加により堅実に推移していますが、地方交付税は減額傾向にあります。本町を取り巻く財政状況は厳しさを増す中において、持続可能な財政運営を目指し、PDCA を意識した計画的な行政経営を堅実に実行してきたことは評価するところです。</p> <p>この10年間は老年人口が増加する一方で、生産年齢人口および年少人口が減少し、全体としては人口減少が進みました。少子高齢化対策だけでなく、地域コミュニティの活性化、地域産業の支援など、直面する課題も複雑化、多様化するとともに新たな課題も表面化しており、いずれの施策にも人口減少、少子高齢化の影響がうかがえます。地方自治体は、住民の福祉の向上を図り自主的かつ総合的に政策に取り組むことともに、地域住民も自らの判断と責任において、地域の諸課題に取り組んでいくことも求められています。</p> <p>また、地方自治体を取り巻く行財政環境は今後も厳しさを増すと考えられることから、事業の目的と効果を十分に検証し、事業を推進していく必要があります。</p> <p>高齢者が安心して暮らしていける町、子どもが伸びやかに育つことができる町であり続けるためにも、第4期総合計画において積み残した課題等は、次期計画に反映し、持続可能なまちづくりを実現させていくことを期待し、検証報告といたします。</p>		
--	--	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--

【協議後の意見から】

○各項目について評価の視点(見解)が同じものはまとめられるが、他のものは併記のような形で整理すべきである。